



第2章 森町の景観に関する現況と課題

1. 森町の現況

(1) 特性

● 位置

森町は、静岡県西部の中遠地域北部に位置し、北西は浜松市天竜区、南西は磐田市、北東は島田市、南東は掛川市、南は袋井市と接しています。町域は東西約 13 キロメートル、南北約 24 キロメートルと南北に長く、面積は 133.91 平方キロメートルとなっています。

静岡市から約 60 キロメートル、浜松市から約 25 キロメートルに位置し、2012 年（平成 24 年）に新東名高速道路森掛川インターチェンジが、2014 年（平成 26 年）に遠州森町スマートインターチェンジが供用開始されたことにより、広域交通の利便性が向上しています。

● 地形・水系

町の地形は、東西に狭く南北に長い地形で、赤石山系に属し、高峻な山陵がそれぞれ扇型に形成されています。また、森町の北部は、三倉川・吉川流域の狭い谷底低地と崖錘が形成されている中小起伏山地、中部の太田川沿いに形成された市街地と南部に広がる田園地域は、谷底平野・扇状地や自然堤防の低地とそれらを取り巻く丘陵地に大別されます。

こうした地形の中、町には、太田川を始めとする 8 本の二級河川と 18 本の準用河川が流れています。河川の流域は、町の北西部の一部が天竜川流域となっているほかは、大半が太田川流域に含まれており、太田川流域はさらに 9 つの流域に区分されます。

■ 位置図

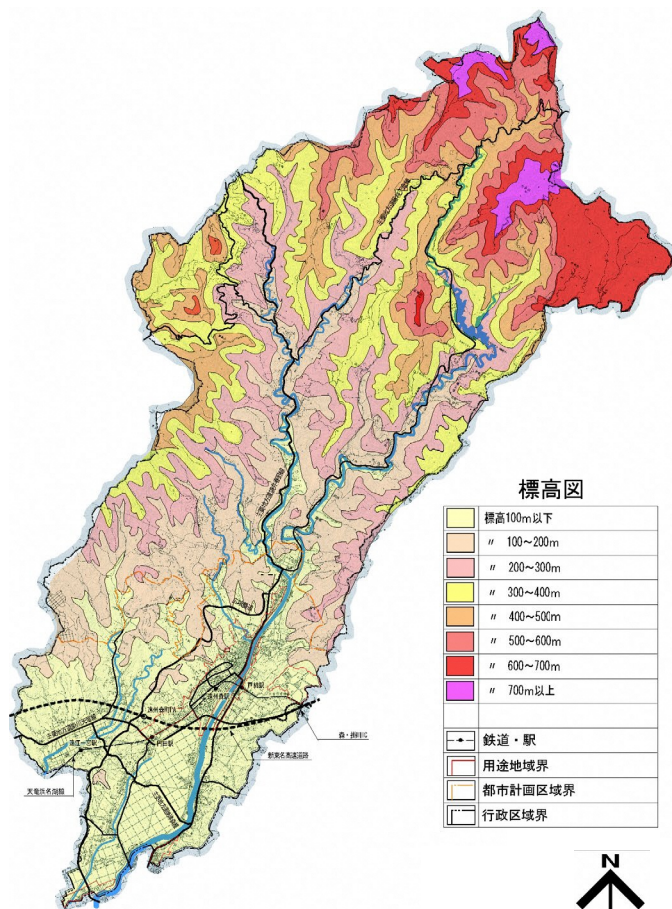


● 標高・傾斜

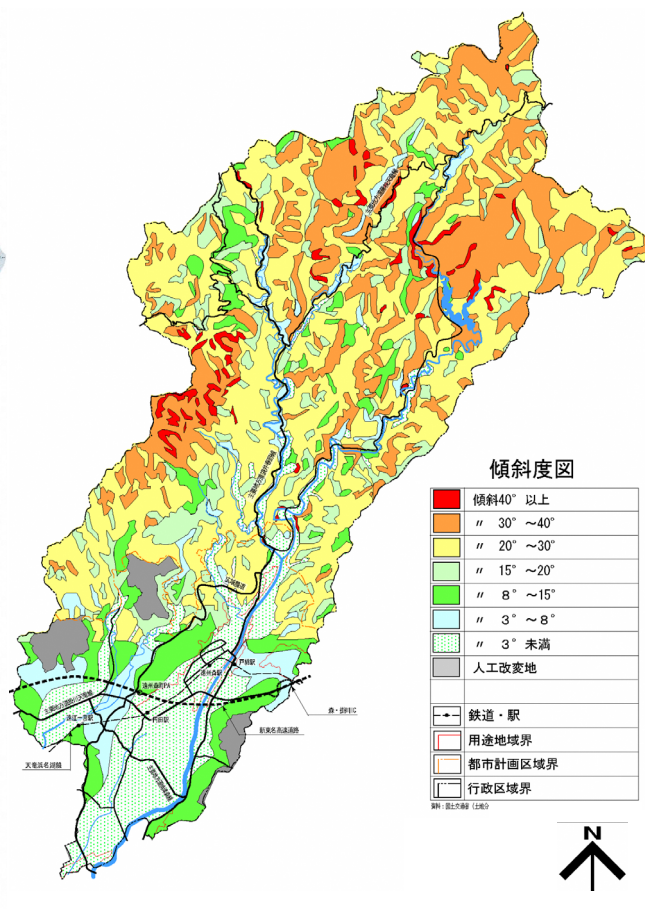
森町の標高は、最も高いところで941メートル（町最北端）、最も低いところで15.4メートル（町最南端）となっており、市街地は標高40メートル前後に広がっています。

傾斜度は北部の山間地は15度以上、平坦^{たん}部を取り囲む丘陵地は3～15度未満。市街地や南部に広がる田園地域は3度未満となっており、北部にいくほど傾斜がきつくなっています。

■ 標高地図 （出典：森町国土利用計画）



■ 傾斜度図 （出典：国土調査「1/50,000 土地分類基本調査（傾斜区分図）」）



● 植生

町の南部に広がる平坦^{たん}地には水田等が、傾斜が緩やかな山地や丘陵地の一部には茶畑が分布しています。樹林地はスギ、ヒノキ、アカマツ等の植林地が大部分を占め、広葉樹林が、北部山地に点在しています。

● まちの成り立ち

森町には、太田川流域の丘陵部に縄文時代の集落の遺跡分布が確認されており、以後、弥生・古墳・奈良時代に入り、急速な発展をみせ、ことに大鳥居以南に集落の形成が始まりました。

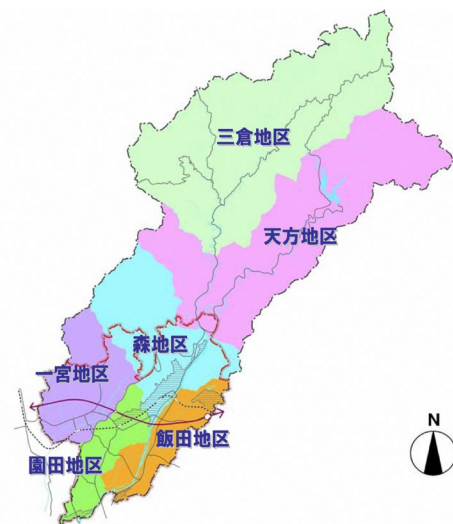
平安時代、森町は一宮荘と飯田荘の二つの^{しやう}荘園及び三倉郷・谷中以南の諸村などが公領でありました。一宮荘には上ノ郷、下ノ郷、円田ノ郷、天宮ノ郷、太田ノ郷（森ノ郷、現在の森町中心部）があり、飯田荘には上郷（現在の天方・向天方）、戸和田郷、下郷（現在の飯田）がありました。平安末期、磐田の国分寺の衰退後、小國神社を中心とする一宮が、遠江国の安泰を祈るようになりました。

室町時代の遠江の守護は、今川氏から^{しは}斯波氏、その後今川氏と変遷しました。そして、戦国時代の後期に至って武田と徳川の攻防の末、徳川家康の所領となりました。家康が関東へと^{てんぽう}転封したのち、現在の森町中心部は豊臣氏の所領となり、掛川城主山内一豊の支配下となりました。

また、古くから、信州方面へ通じる信州街道（塩の道）と秋葉山信仰の宿場町、物資の集散地でもあったため、家康により森市場が制定され、山中一円の物資、ことに林業と茶業を中心とした商いのまちとして大変にぎわいました。また、江戸時代末期には、古着商のまちとしても繁栄しました。

1889年（明治22年）の町村制の施行によって、旧来の郷村はそれぞれ三倉村、天方村、森町、一宮村、園田村、飯田村となり、1955年（昭和30年）には、天方村、森町、一宮村、園田村、飯田村の5か町村が合併し、さらに翌年、三倉村と合併、同時に小笠郡原泉村嵯峨野及び中塚地区を編入して、現在に至っています。

当時の1町5村のコミュニティは今も残されており、旧町村単位を基本とした「三倉」、「天方」、「森」、「一宮」、「園田」、「飯田」の地区名は、町民等に慣れ親しまれています。



■ 沿革 （出典：森町ホームページ）

- ・ 太田川の豊かな流れに育まれた森町の歴史は古く、流域の丘陵部には縄文時代の遺跡の分布が認められている。弥生時代になると集落が形成され、人々の生活の基盤も、それまでの狩猟・採集から稲作へと変わり、生産力も飛躍的に増大した。
- ・ この地方が「遠江国」と呼ばれるようになった奈良時代から平安時代にかけて、十二段舞楽で名高い小國神社と天宮神社が創建された。山名神社に伝わる天王祭舞楽とあわせ、今日まで伝えられている三つの舞楽は国の重要無形民俗文化財に指定されている。
- ・ 室町時代に入り、遠江には斯波氏と今川氏が覇を競い、永正年代には今川氏の制するところとなる。しかし、桶狭間での敗戦をきっかけに今川氏は急速に衰え、ついに武田・徳川両軍のため滅亡してしまう。その後、森町付近では両軍の激しい攻防が繰り返され、結局は徳川家康の支配下に入ることとなった。
- ・ 江戸時代中期、「火伏せの神」として秋葉山信仰が盛んで、森町は街道の宿場町としてとても栄えた。そのため、いまでも立派な常夜灯が、北戸綿や城下、黒石などに残っている。また、森町は古着の町でも有名で、当時は全国の古着市場の相場を左右したといわれるほど繁栄した。
- ・ 森町を縦断する道は古くから交通の要衝にあったことから、明治時代には道路の整備が進むとともに、1902年（明治35年）には森町と袋井の区間を走る秋葉馬車鉄道が開業した。その後、1935年（昭和10年）には掛川と森の間を汽車が走るようになり、1940年（昭和15年）には豊橋まで連絡され、国鉄二俣線が開通した。（1987年（昭和62年）に、国鉄二俣線が廃止され、天竜浜名湖線が運行を開始した。）
- ・ 1889年（明治22）の市町村制施行では1町5村（天方村・森町・一宮村・園田村・飯田村・三倉村）となり、その後、1955、1956年（昭和30年、昭和31年）の合併を経て現在の森町が形成された。

● 文化財

森町にある神社の中で、小國神社・天宮神社に伝わる十二段舞樂は宮中でも行われる雅樂の原型をなすものであり、国の重要無形民俗文化財に指定されています。また、飯田の山名神社に伝わる舞樂も同様に国の重要無形民俗文化財に指定されています。このように、三つの舞樂が完全な形で残っていることは全国でも珍しく、伝統がよく守られています。

森町には、18世紀初めに建てられた友田家住宅が、国の重要文化財に指定されていることを始め、国指定文化財が2件、県指定文化財が15件、町指定文化財が96件、登録有形文化財が3件あり、市街地付近に多く点在しています。

■ 指定文化財一覧

国指定文化財 2件
○友田家住宅（昭和48年6月2日指定）
○遠江森町の舞樂（昭和57年1月23日指定）
・小國神社古式舞樂十二段
・天宮神社十二段舞樂
・山名神社天王祭舞樂

県指定文化財 15 件	
○鰐口 (加茂神社・自得院・天宮神社)	○天宮神社本殿及び拝殿
○太刀無銘(金象嵌一文字)	○友田家(隠居屋)住宅
○短刀銘遠州住友安	○山名神社本殿附棟札
○絹本着色天台大師画像	○三倉八幡神社本殿附棟札
○紙本墨書大般若經	○手揉製茶技術
○次郎柿原木	○小國神社の田遊び
○天宮神社のナギ	

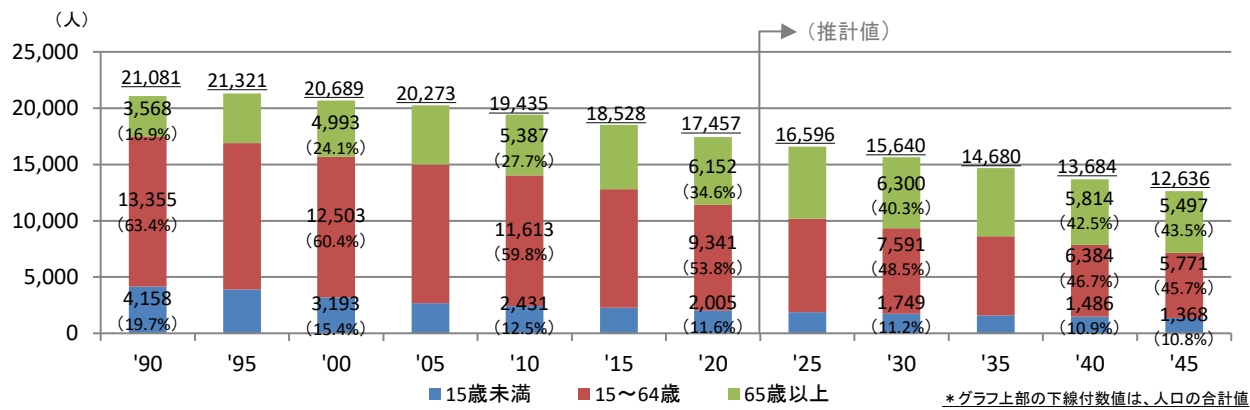
町指定文化財 96 件	
彫 刻 ○庵山の観音像ほか 11 件	工 芸 ○中山寺木造阿弥陀如来座像ほか 13 件
有形民俗 ○小國一宮大境三ツ石ほか 6 件	考古資料 ○大まる様ほか 4 件
無形民俗 ○常磐太鼓ほか 2 件	歴史資料 ○遠州報国隊資料ほか 3 件
書 跡 ○秋葉街道似多栗毛ほか 5 件	天然記念物 ○若宮八幡神社御神木ほか 3 件
古文書 ○山田七郎左衛門家文書ほか 5 件	名 勝 ○葛布の滝
建造物 ○城下の町並 ○赤根秋葉山常夜灯ほか 13 件	史 跡 ○飯田城跡 ○小國一宮大城戸ほか 14 件
絵 画 ○元三慈恵大師画像ほか 2 件	

登録有形文化財 3件	
○天竜浜名湖鉄道施設 3件	

(2)人口

- 森町の人口は、自然減・社会減により、今後20年間で現在の約8割まで減少すると推計されています。
- 高齢化が進み、2040年（令和22年）には町民の約4割が65歳以上になると推計されていますが、元気な高齢者が多いという特徴があります。

■ 人口・高齢化の動向（参考：2020 国勢調査及び『日本の地域別将来推計人口』（平成30（2018）年推計）・国立社会保障 人口問題研究所資料）



■ 元気な高齢者

- 静岡県内において、森町は元気な高齢者が多く、「お達者度」（65歳以降、自立して健康に生活できる期間）が高い。

①-1 健康寿命が高い県（健康寿命の令和元年値について、厚生労働省）

男性			女性		
順位	都道府県	歳	順位	都道府県	歳
1	大分県	73.72	1	三重県	77.58
2	山梨県	73.57	2	山梨県	76.74
3	埼玉県	73.48	3	宮崎県	76.71
4	滋賀県	73.46	4	大分県	76.60
5	静岡県	73.45	5	静岡県	76.58

①-2 森町のお達者度の推移（静岡県調査）

調査年度	男性		女性	
	お達者度（年）	順位	お達者度（年）	順位
2011	18.82	1	21.44	4
2012	19.49	1	22.05	1
2013	18.33	2	21.88	2
2014	18.33	6	22.43	1
2015	17.90	18	21.71	5
2016	18.16	16	21.43	12
2017	18.62	8	21.26	22
2018	19.25	1	21.44	13

【参考】 元気な高齢者が多い要因推察（出典：森町資料「静岡県森町における健康長寿の推進について」）

考察	森町の取り組み
① 介護の認定率が高いが、軽度者が多く、比較的早い段階からサービスを利用し、自立した生活を長く続けている人が多い。	○ 介護予防事業（脳活性化教室、運動教室の開催）の推進 ○ ご当地体操の作成・普及
② 特定健診等の受診率が高く、健康に対する意識が高い。	○ 特定健診の受診勧奨、特定保健指導を積極的に実施
③ 各種ボランティア活動が盛ん。	○ 介護支援ボランティア活動（ボランティアポイント制度）の推進 ○ 元気もりもりサポーターによる「100サロン」の開催
④ 年間を通して、農林産物（名産品）の栽培が盛んであり、高齢になっても働く場が多い。	○ 土地改良事業により、水田が汎用化され、年間を通したローテーションにより、多様な農作物の栽培が可能 ○ 遠州森の茶、次郎柿（治郎柿）の栽培
⑤ お茶農家、お茶販売店（茶商）が多く、日頃からお茶をたくさん飲む、楽しむ文化が根付いている。	○ 急須でお茶を飲むまちづくりの推進 ○ 茶業振興協議会（町長自らが会長）の取り組み

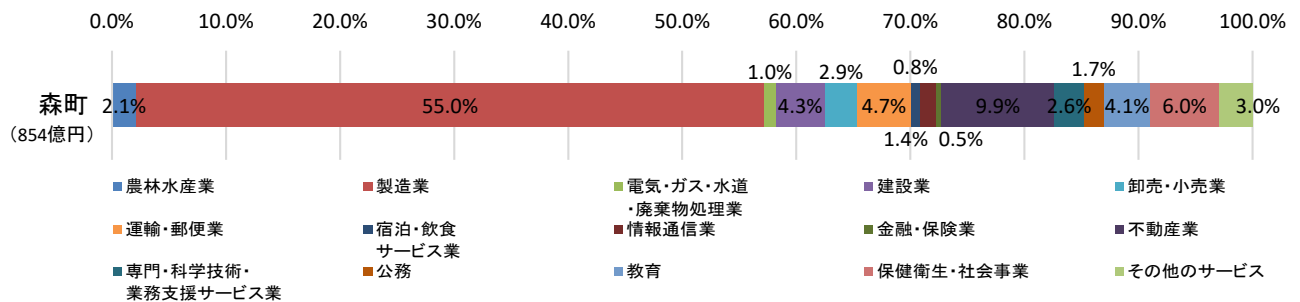
(3)産業

- 森町の産業は、製造業が盛んで総生産額の約6割を占めています。また全国と比較して特徴的な産業は輸送用機械やその他の製造業、食料品のほか、農業等となっています。
- 商工業の事業者数や農業の就業者数は減少傾向にあり、人口減少・少子高齢化の影響から、今後も産業を支える担い手の減少、耕作放棄地の増加や商店数の減少が懸念されます。
- 森町には豊富な観光資源が存在するため、年間120万人以上の観光客が訪れています。

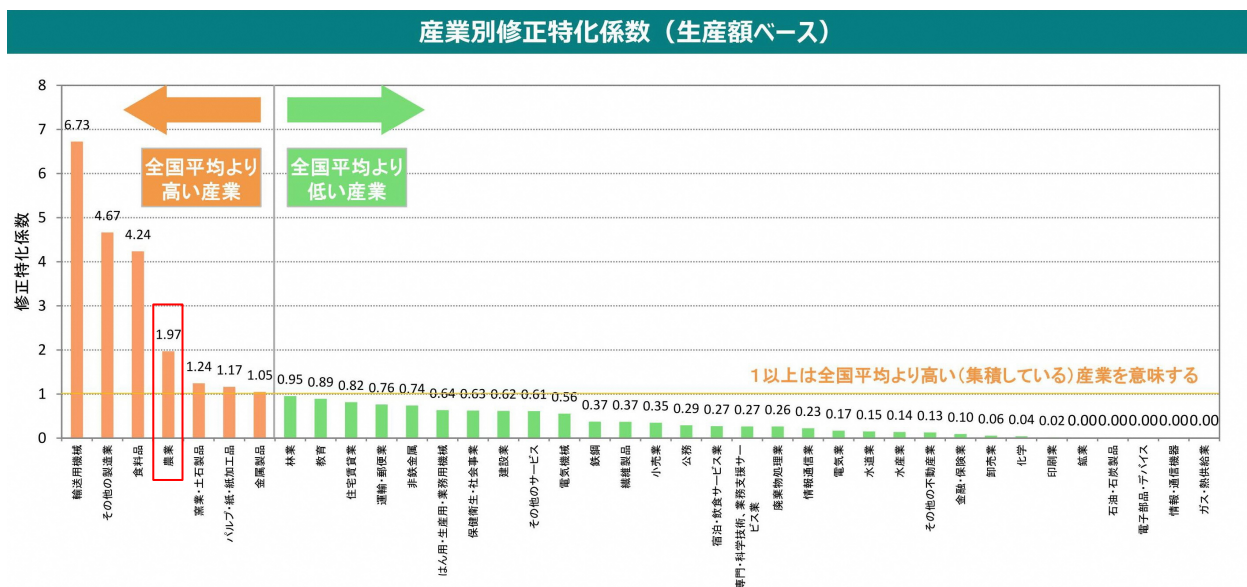
● 産業全体の動向

- ① 町では多様な産業が営まれているが、中でも製造業が盛んで総生産額の6割を占めている。
- ② 全国と比較して特徴的な産業は、輸送用機械、その他の製造業、食料品のほか、農業等となっている。

① 総生産額の割合 (出典：しずおかけんの地域経済計算 2018)



② 産業中分類別の生産額、及び全国と比べ特徴的な/特化している産業 (環境省 地域経済循環分析ツール【2018年版】により作成)

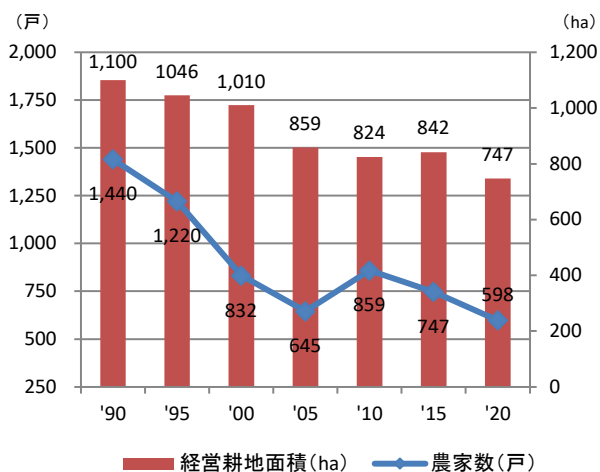


● 農業・商業・工業の動向

- ① 農林業は、温暖な気候に恵まれ、米・茶・レタス・スイートコーン・温室メロン・次郎柿（治郎柿）など多彩な農業が営まれ、山間部では、しいたけなどの栽培や林業が盛ん。しかし、近年、従事者の高齢化や後継者不足、農産物の販売価格の低迷、耕作放棄地の増加等が課題。耕作放棄地は、地区別では特に森、一宮、三倉地区の増加が著しく、農作物種別では茶園及びその他樹園地の耕作放棄地化が目立つ。
- ② 商業は、商店数が年々減少傾向にある。年間販売額も、大型スーパーの立地による一時的な増加がみられるものの、全体としては減少傾向にある。

①-1 経営耕地面積と農家数

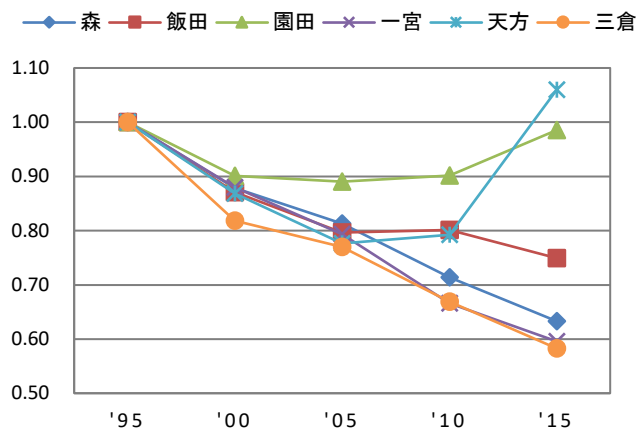
（出典：2020年農林業センサス）



①-2 地区別の耕作放棄地の推移

（出典：2015年農林業センサス）

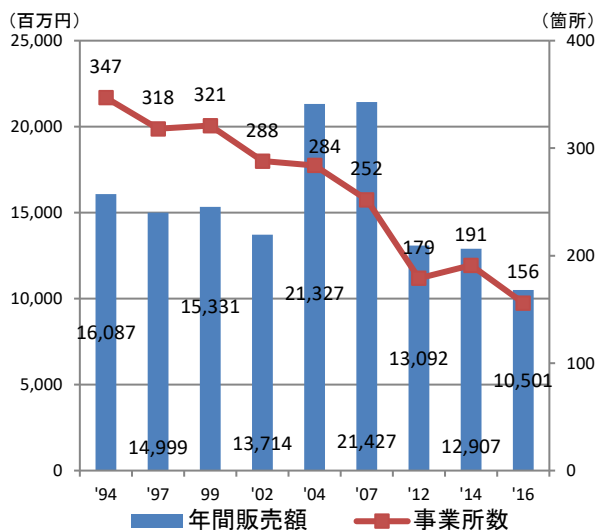
*1995年（昭和60年）を1とした場合



※一宮地区の2000年の耕地面積は、1995年比1.38倍の異常値だったため、修正した。

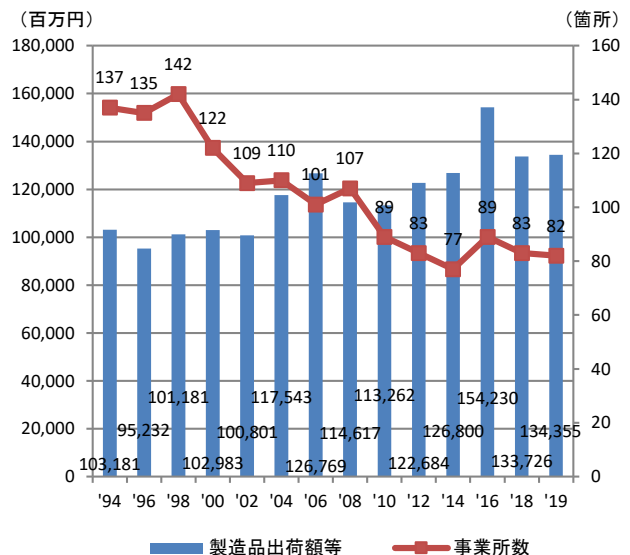
② 商品年間販売額と事業所数の推移

（出典：商業統計調査、経済センサス）



③ 製造品出荷額等と事業所数の推移

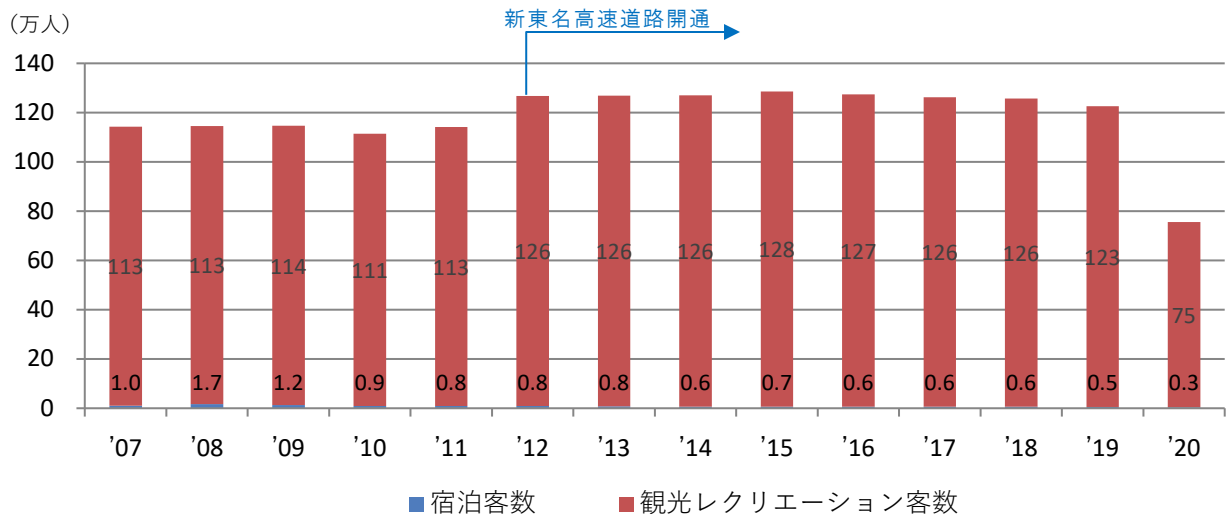
（出典：工業統計調査）



● 観光の動向

- ① 新東名高速道路が開通した 2012 年（平成 24 年）以降、年間 120 万人以上の観光客が訪れている（2020 年（令和 2 年）を除く）。一方、宿泊客は 1 万人未満と少なく、通過型の観光地となっている。
- ② 町の主な観光資源として、以下が挙げられる。
- ・ 奈良～平安時代に創設されたとされる小國神社や天宮神社など、歴史を感じさせる社寺
 - ・ 豊かな自然環境を活かした、森町体験の里アクティ森やゴルフ場などの体験・レジャー施設
 - ・ 町内外から多くの人を集客する、森のまつりや産業祭「もりもり 2 万人まつり & 農協祭」などの催し
 - ・ 米、茶、レタス、スイートコーン、温室メロン、次郎柿（治郎柿）などのこだわりの農産物

① 観光客の推移 （出典：令和 2 年度 静岡県観光交流の動向）



② 森町の観光資源 （出典：森町観光協会ホームページ等）

(1) 遠江國一宮小國神社 ・ 1460 余年の歴史を持つ古社 ・ 初詣や紅葉を楽しみに、年間多くの人々が来場 ・ 鳥居横の休憩どころことまち横丁では、森の茶や華うどんなどが楽しめる。 ・ 重要無形民俗文化財の十二段舞楽の伝統がある。 ・ 恋愛成就のお守りとして縁結びの木が有名	(2) 森町体験の里アクティ森 ・ 創作体験工房やアウトドア体験フィールド、地場産品販売所などを備えた複合型体験施設 ・ 伝統工芸である紙すきや身近な植物を利用した草木染め、陶芸などが体験できる。 ・ 屋外ではパターゴルフやマウンテンバイクといったアクティビティも楽しめる。
(3) 遠州森のまつり ・ 11 月第 1 週の金・土・日曜に行われる。 ・ 各町内 14 台の華麗な彫刻の屋台が引き回され、夜には各筋で屋台のぶつかり合う激しい練りが見られる。 ・ 3 日目の夜の舞児 還 して、祭りは最高潮に。	(4) 昔ながらの町並み ・ 昔ながらの町並みと風情を見ることができる。 ・ 日本の風景を世界に知らしめた大正時代の地理学者 志賀重昂（しがしげたか）は、この地の風景の美しさに心を打たれ「森町之賦」に、「小京都」と詠んで 讃 えた。
(5) 次郎柿（治郎柿） ・ 豊かな自然と温暖な気候の町のいたるところに柿の木があるほど栽培が盛んである。 ・ 10～12 月が旬である次郎柿は「甘柿の王様」と呼ばれるほどとても甘い。 ・ ヘタの緑色が鮮やかなものや、ヘタと果実の間に隙間がないものが、甘い柿を選ぶポイント	(6) 太田川ダム・かわせみ湖 ・ 多目的ダムとしてつくられた太田川のダム湖 ・ 湖周辺には休憩所や気軽に歩ける散策コースが整備されている。 ・ 彩岬展望台の先端は 360 度パノラマビューが広がる絶景を見ることができ、湖畔広場や野鳥観察エリアなどがある。

第2章 森町の景観に関する現況と課題

■ 森町の観光資源一覧（施設等） （出典：「平成 29 年「遠州の小京都まちづくり」基本計画」を基に作成）

	三倉	天方	森	一宮	園田	飯田
神社・寺院	・金剛院 ・許禰神社 ・蔵泉寺 ・栄泉寺	・大日堂（大まる様） ・蔵雲院 ・自得院 じつげつ ・日月神社	・天宮神社 ・三島神社 ・金守神社 ・大洞院 ・梅林院	・小國神社 ・極楽寺	・香勝寺	・山名神社 ・賀茂神社 ・遍照寺 ・本立寺 ・崇信寺
歴史的資源 （文化財等）	・秋葉山常夜灯 ・戦国夢街道	・友田家住宅 ・秋葉山常夜灯	・江間家土蔵 ・天方城跡（城ヶ平公園） ・遠州森駅本屋及び上りプラットホーム（天竜浜名湖鉄道） ・太田川橋梁（天竜浜名湖鉄道） ・延城橋 ・本町の町並み ・城下の町並み ・旧城下学校 ・歴史民俗資料館 ・秋葉山常夜灯 ・次郎柿（治郎柿）原木 ・桜御前の碑 ・森町之賦	・遠江一宮駅本屋（天竜浜名湖鉄道） ・秋葉山常夜灯		・飯田城跡 ・秋葉山常夜灯
文化的資源 ・施設等		・森町体験の里アクティ森	・森山焼陶房（静邨陶房、中村陶房、晴山陶房） ・森町総合体育館 ・森町文化会館 ・保健福祉センター（望月プラザ/もりの湯） ・森の市	・宮の市 ・新東名高速道路 遠州森町PA ・森山焼陶房（田米陶房）	・新東名高速道路 遠州森町PA	
自然的資源・ 自然を活かした施設	・三倉川 ・東海自然歩道 ・大河内清流やまめの里	・太田川（吉川） ・かわせみ湖（太田川ダム） ・葛布の滝 ・タイラ沢の滝 ・コテージ・アクティ ・吉川キャンプ場 ・カワセミの里 ・半夏生の里	・太田川 ・町民の森 ・太田川親水公園 ・ザ・フォレスト CC	・一宮川 ・ザ・フォレスト CC ・三木の里CC	・太田川	・太田川 ・葛城CC
その他	・ふじのくに美しく むら 品格のある邑 （歴史と自然が奏 る里山、三倉）	・ふじのくに美しく むら 品格のある邑 （天方）		・ふじのくに美しく むら 品格のある邑 （一の宮の里）	・ふじのくに美しく むら 品格のある邑 （森町南部）	・ふじのくに美しく むら 品格のある邑 （森町南部）

■ 森町の観光資源一覧（イベント等） （出典：「平成 29 年「遠州の小京都まちづくり」基本計画」を基に作成）

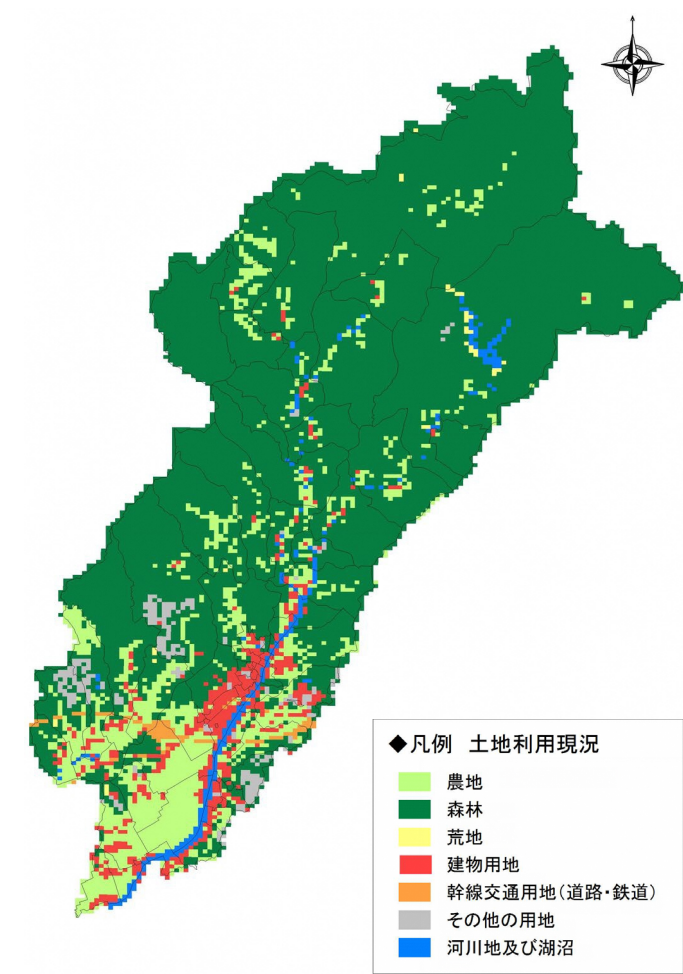
	春（3月～5月）			夏（6月～8月）			秋（9月～11月）			冬（12月～2月）		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
三倉	・ぶぶぶの日			・三倉川アユ釣り解禁 ・大般若経（蔵泉寺） ・きゅうり祈とう（金剛院）			・星まつり（金剛院） ・柴灯護摩祈とう（金剛院） ・ぶぶぶの日			・大般若経（蔵泉寺）		
天方	・ぶぶぶの日			・吉川アユ釣り解禁 ・太田川ダムまつり			・森町クラフトフェア（アクティ森） ・ぶぶぶの日					
森	・石松まつり（町内～大洞院） ・石松供養祭 ・天宮神社例大祭 ・十二段舞楽（天宮神社） ・町並みと蔵展（まちなか） ・ぶか風揚げ（太田川河川敷） ・森町健康Kトラ市（保健福祉センター） ・森の古着・骨董市			・太田川アユ釣り解禁 ・納涼花火大会 ・森はたる ・森町健康Kトラ市（保健福祉センター） ・森の古着・骨董市			・蓮華寺萩祭り ・森のまつり（三島神社・まちなか） ・もりもり2万人まつり&農協祭（文化会館） ・大洞院紅葉祭 ・町並みと蔵展（まちなか） ・森町健康Kトラ市（保健福祉センター） ・森の古着・骨董市			・星まつり（蓮華寺） ・餅焼き（大洞院） ・森町健康Kトラ市（保健福祉センター） ・森の古着・骨董市		
一宮	・小國神社桜まつり ・小國神社例大祭 ・十二段舞楽（小國神社） ・まちあい朝市（遠江一宮駅）			・小國神社花菖蒲まつり ・極楽寺あじさいまつり ・とうもろこし販売（甘々娘） ・まちあい朝市（遠江一宮駅）			・小國神社紅葉祭 ・まちあい朝市（遠江一宮駅）			・小國神社田遊祭 ・節分祭（小國神社） ・まちあい朝市（遠江一宮駅）		
園田				・香勝寺さきょうまつり ・とうもろこし販売（甘々娘）								
飯田				・太田川鮎釣り解禁 ・山名神社天王祭 ・山名神社天王祭舞楽 ・とうもろこし販売（甘々娘）			・鬼子母神祭（本立寺）					
花めぐり	サザンカ											
	ツバキ											
	ウメ											
	サクラ											
	シャガ											
	シャクナゲ											
	ハナショウブ											
	ハギ											
	アジサイ											
	キキョウ											
	ユリ											
	モミジ											
農の恵み	お茶											
	治郎柿											
	とうもろこし											
	レタス											
	お米											
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	春（3月～5月）			夏（6月～8月）			秋（9月～11月）			冬（12月～2月）		

花・紅葉関連 無形文化財（国又は県） 定期開催（月1回程度） 定期開催

(4)土地利用

- 町域の7割以上が森林や農地などの自然的土地利用となっており、豊かな自然環境の中、太田川沿いの低地等にコンパクトな市街地が形成されています。
- 今後、人口減少や高齢化が進むことで、管理不足の土地（空き地や耕作放棄地等）が増えることが懸念されます。

■ 町全体の土地利用 (出典：国土数値情報)



■ 用途地域等の指定状況 (出典：静岡県の都市計画 (資料編))

行政区域と 都市計画区域	面積 (ha)	割合※ 1 (%)
行政区域	13,391	100.0
都市計画区域	3,198	23.9 (100.0)
（うち用途地域）	318.1	2.4 (9.9)
人口集中地区※3	0	0 (0)
用途地域	面積 (ha)	割合※2 (%)
第一種低層住居専用地域	43.5	13.7
第一種中高層住居専用地域	39.4	12.4
第二種中高層住居専用地域	24.4	7.7
第一種住居地域	68.5	21.5
第二種住居地域	14.7	4.6
近隣商業地域	24.0	7.5
準工業地域	16.6	5.2
工業地域	7.0	2.2
工業専用地域	80.0	25.1

※1 割合は、上段が行政区域に対するもの、下段括弧内が都市計画区域に対するもの

※2 割合は、用途地域 318.1ha に対する割合

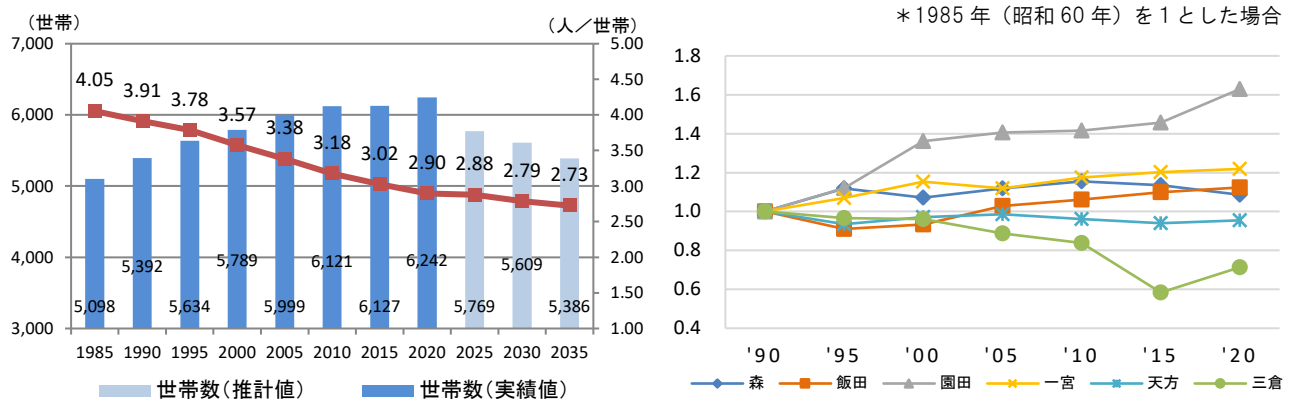
※3 人口集中地区とは、人口密度 40 人/ha 以上の地区が隣接し、併せて人口 5,000 人以上となる地区のこと。森町は、人口密度 40 人/ha を超える地区はあるものの、こうした地区が隣接して人口 5,000 人以上となる地区がないことから、人口集中地区はない。

(5)住まい方

- 森町では、人口減少に伴い世帯数も2015年（平成27年）をピークに減少しています。
- 近年、空き家が増加しつつあり、住宅土地統計によると、町の住宅ストック6,820戸のうち600戸超が二次的利用もない空き家とされています。今後、これら空き家が、地域の景観の悪化、防災性の低下等を招くことが懸念されます。
- その一方で近年、森町に魅力を感じ、移住される方も増えています。

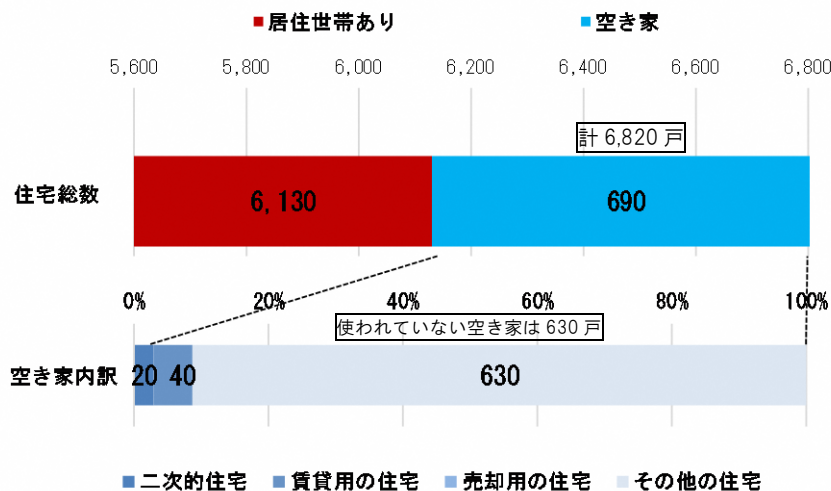
■ 世帯数と世帯当たり人員数の推移、地区別の世帯数の推移

(出典：国勢調査)

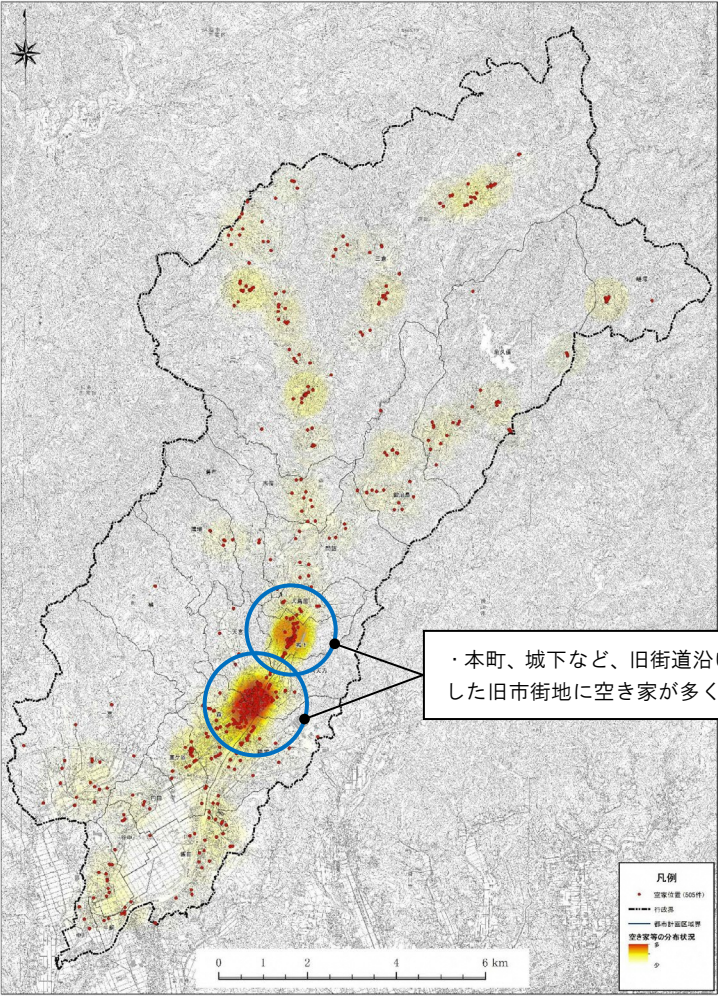


■ 住宅ストックと空き家の内訳

(出典：2018 住宅統計調査)



■ 空き家候補建物の分布状況及び地区別の建物数・建物比率（出典：森町空き家等実態調査）



地 区	建物総数 (戸) ※1	空き家候補 建 物 数 (戸) ※2	空き家候補 建 物 比 率 (%)
三 倉	427	107	25.1
天 方	501	83	16.6
森	2,724	197	7.2
一 宮	642	20	3.1
園 田	1,357	49	3.6
飯 田	1,401	49	3.5
町合計	7,052	505	7.2

※1：森町男女別町名別人口表(平成29年2月28日現在)の世帯数を居住実態のある建物件数とみなし、これに空き家候補建物件数を加えた件数をもって建物総数とした
※2：現地調査の結果、使用実態がないと判定された建物数

・本町、城下など、旧街道沿いに発展した旧市街地に空き家が多く発生

■ 移住者の住まい方（出典：森町定住推進課パンフレット）

- ① 自宅をゲストハウスとして改築し、暮らしと^{なりわい}生業を両立。森町の魅力を発信することで、町に人を呼び込むことにもつながっている。
- ② 高速道路のインターチェンジをうまく使い、自然豊かな子育て環境と、広域での仕事を両立
- ③ 外国から移住し、大自然に囲まれた古民家を改修しながら、芸術家として活動
- ④ 古民家を改修した自家焙煎^{ばい}珈琲屋。お店の入口には、自家栽培の旬の農作物が並ぶ。
- ⑤ 大自然に囲まれた環境を^い活かし、狩猟とグラフィックデザインで生計。趣味と仕事を両立



(6)新型コロナウイルス感染症の流行と暮らしの変化

- 2020年（令和2年）1月に国内で新型コロナウイルス感染症が確認されました。国内の感染者数は累計で1,733,788人です（2022年1月1日現在）。
 - 新型コロナウイルス感染症は、3密（密閉・密集・密接）の環境で感染リスクが高まるとされています。
 - これらを受け、暮らし方に対する意識に変化が生じているため、意識変化に対応した施策の推進が求められます。
- ① 働き方：テレワーク利用の拡大・維持
 - ② 住まい方：二地域居住※1や地方移住への関心の高まり
 - ③ レジャー：ワーケーション※2・プレジャー※3に対する関心の高まり。アウトドアの需要の高まり

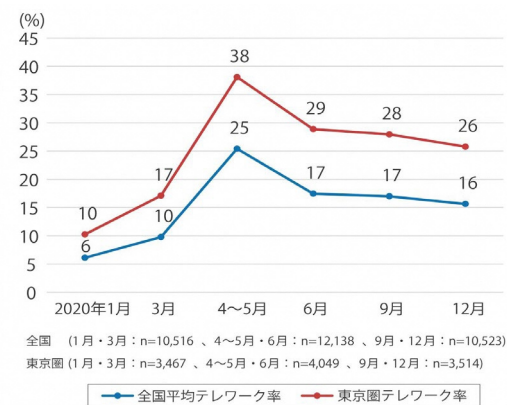
※1 二地域居住：都市部と地方部に二つの拠点をもち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルの一つ

※2 ワケーション：テレワーク等を活用し、ふだんの職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと

※3 プレジャー：出張等の機会を活用し、出張先等で滞在を延長するなどして余暇を楽しむこと

■ テレワーク利用率（2020年）

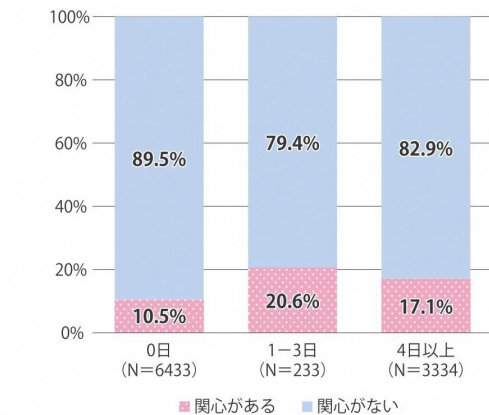
（出典：国土交通白書 2021）



資料）大久保敬弘・NIRA 総合研究開発機構（2021）「第3回テレワークに関する就業者実態調査報告書」

■ 二地域居住・地方移住への関心（テレワーク利用日数別）

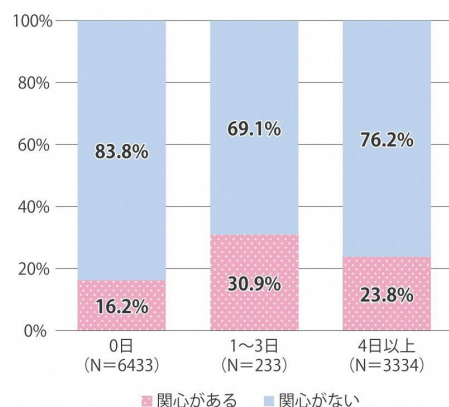
（出典：国土交通白書 2021）



資料）国土交通省「国民意識調査」

■ ワケーション・プレジャーへの関心（テレワーク利用日数別）

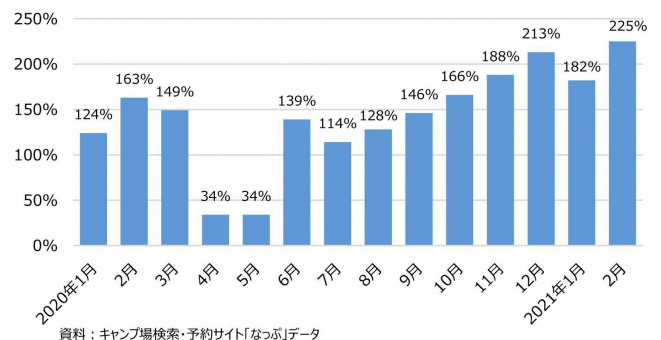
（出典：国土交通白書 2021）



資料）国土交通省「国民意識調査」

■ キャンプ場1施設当たりの平均予約件数（前年同月比）

（出典：令和3年版観光白書）



資料：キャンプ場検索・予約サイト「なっぷ」データ